

デニム新商品CF活用

インターネットでお金を募るクラウドファンディング(CF)を活用し、デニムを使った新商品を作る動きが福山市内の企業で相次いでいる。オンラインの技術や、色落ちするデニムの魅力を広くPRし、事業を広げる狙いがある。(榎本直樹)

福山企業が本カバーや靴

刺しゅう・染色 独自の技PR

刺しゅうやデニム加工するものづくりを探求しよう」とCFを使った商品化を企画。織物メーカーとフットカバーを作った。デニムを木に張り付けて「ウッドデニム」を使用。銀糸で鳳凰の刺しゅうをしたタイプもある。広中登志治社長は、

「染色業の山陽染工(一文字町)は2種類の靴を発売した。スニーカーと、ひもがないスリッポン。デニムの色を薬剤で抜き、グラデーションを生む独自の

技術「段落ち抜染」を生かした。デニムの糸は芯が白く、薬剤の濃度を変えていくことで色の濃淡が表現できる。デニムに染料をプリントした際と比べ、生地が柔らかい風合いを保てるメリットがある。新商品は鮮やかなペイズリー柄で、靴メーカーのスピンクルカンパニー(府中市)に製造を委託した。価格は1万5600円など。両社とも、CFサイト「マクアケ」で販売している。



織研新聞 H30.6.21



抜染で濃淡つけたデニムスニーカー販売 山陽染工
染色加工の山陽染工(広島県福山市)は7月30日まで、同社の独自技術「段落ち抜染」を使ったデニムのスニーカーとスリッポンの写真をクラウドファンディングサイト「マクアケ」で販売している。

従来は一つの型でインディゴ染めた生地から色を抜く「白抜き抜染」を、濃度を変えて3型で行うことで濃淡のある柄を描いた。靴の製造は広島府中市の靴メーカー、スピンクルカンパニーに委託しており、備後地方での物作りを徹底した。いずれも1型刻みで22・5、27・5、4割引き(1万1700円)と2割引き(1万5600円)のコースを受け付けている。

繊維ニュース

H30.6.21

山陽染工

クラウドファンディング 活用し独自シューズ発売

染色加工業の山陽染工(広島県福山市)は、クラウドファンディング「マクアケ」を通じ、自社のデニム加工技術を用いたスニーカーとスリッポンを発売する。同社では初めての試みとなる。

シューズの素材には同社の独自技術「段落ち抜染」加工を施したデニムを用いる。夏場の白パンツとのコーディネートにポイントとする。



独自加工を生かし、爽やかな印象に仕上げた

サイズ展開は22・5から27・5まで1型刻み。価格は1万5600円。出資の募集は7月30日までで、商品の発送は8月になる。

山陽新聞 H30.6.22

抜染加工したシューズ



山陽染工が売り出したシューズ「BASSEN WORKS」

染色加工の山陽染工(福山市一文字町)は、デニムの色を抜いて柄をつくる抜染加工を施したシューズ「BASSEN WORKS」を開発した。クラウドファンディング仲介サイト「Makua ke(マクアケ)」で7月30日まで販売している。色を2〜4段階抜くことで、濃淡の細かいペイズリー柄を表現。府中市のシューズメーカーと連携し、スニーカーと、ひもや金具がないスリッポンタイプを各150足製作した。サイズはともに

22・5、27・5の1型刻み。定価は1足1万9500円(税込み)だが、今回は1万5600円(同)で15日に発売した。抜染加工による商品開発は2016年に発表した着物に続き、第2弾。山陽染工は「色落ちし、はき込んだジーンズのよくな味わいも楽しめる。本格的な柄入りのデニムスニーカーは珍しく、ぜひ試してほしい」としている。問い合わせは同社(084-9953-2882)。(松山慎二)

福山市

山陽染工